



たてやま おのがんまっち

2012.08 No.12

南総祭礼研究会



安房国一之宮 館山市神戸地区大神宮 窠房神社



地域の紹介

館山市の南端に位置する大神宮は南房総国立公園内にあり、野鳥の森をはじめ豊かな自然と歴史あふれる地域です。

また、その昔、四国の阿波の国から忌部氏が一族を率いてこの地に上陸し、開発をはじめた所だと伝えられる、安房国開拓にまつわる神話の里でもあります。大神宮とは「大いなる神の居ります処」という意味で、この地名は式

自慢の神輿

安房神社の神輿についての最も古い史料は江戸時代中期の延享元年（一七四五）の記録があります。現在の神輿は明治時代に地元大工によって製作されたと言われています。黒と朱に塗られた神輿は、彫刻にも金箔を施し、屋根には燦々と輝く官幣大社の印である自慢の十六葉菊紋が大きく飾られています。

この神輿の大きな特徴として、担ぎ棒を差し入れる台座が低いことです。そのため担ぎ棒は差し入れるのではなく、下から当てて止め、擽でしっかりと締めるという仕組みです。

これはその昔、安房神社の神輿はとにかく「駆ける神輿」で、「もみ」「さし」よりも、走り続けていくためにできるだけ重量を減らす工夫がされていたとも言われています。安房国司祭出祭時の鶴谷八幡宮まで、当時は担ぎ手八人で駆けて渡御したと言ひ伝えられています。

また、今では担がれていませんが、「ほうれん」と呼ばれる白木の子供神輿があります。これは子供神輿というにはちよつと大きすぎますが、子供達に担ぎ方を覚えてもらうためにも大切な神輿です。

内社であり安房の国一之宮である安房神社が鎮座することに由来しています。忌部一族の上陸地と言われる「布良」から、「巴川を挟み「吾谷山」の麓に鎮座する安房国一之宮「安房神社」、巴川中流域には県指定の縄文・古墳時代の洞窟遺跡ほか多くの遺跡が分布し、弘法大師を本尊とする関東厄除三大師のひとつとされている「小塚大師」、木造如来坐像（県指定）や南北朝時代の地藏菩薩像が祀られている「千祥寺」、平成二十三年に三百二十回忌大法要が挙行された「大神宮義民七人様供養碑」など、壮大な歴史に包まれています。

また、この地域には、天の岩戸神話からの「しりくめなわ」としての「しめ縄」を、通年家々の門に飾る風習が残っています。「しめ縄」はあらゆる災を避け悪疫を除くための象徴とされています。また、忌部後裔の家には、四本方式の注連縄を掛ける風習など、今もって神々と祖先を崇拝した暮らしが営まれている地域でもあります。



- 屋根 述屋根 ● 葺手 普及型
- 棟 扇棟 ● 胴の作 平屋台 ● 造り 漆塗り
- 鳥居 明神鳥居 ● 台輪 普及型 ● 扉 四方扉
- 制作者 地元大工 ● 制作年 明治時代



菊紋と片喰紋であしらった瓔珞



神輿の屋根で燦々と光る
16葉菊紋



安房神社の4本方式の注連縄

近藤画